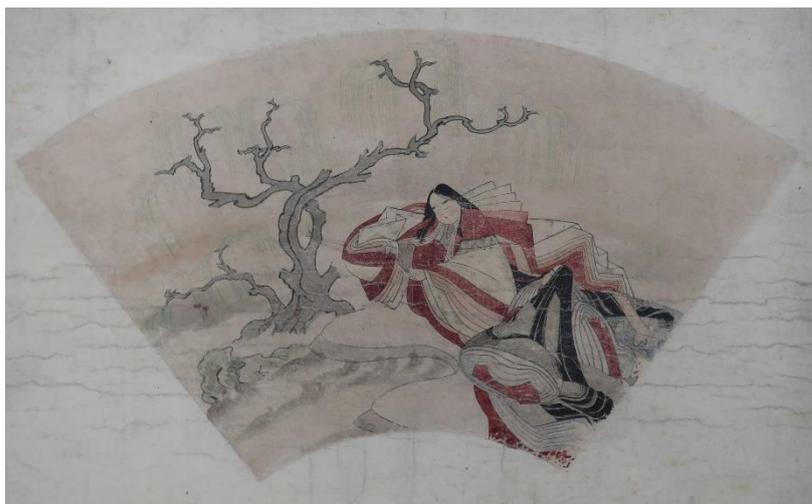


【主な展示資料】



三十六歌仙図画帖（さんじゅうろっかせんずがじょう）より中務（なかつかさ）
江戸時代 斎宮歴史博物館蔵

平安時代の歌人36人の画像と代表的な歌を色紙に描いた画帖。
和歌は、「うぐいすのこえなかりせば雪きえぬ やま里いかで春をしらまし」
（意味：もし、春の訪れを告げるうぐいすの声がなかったら、
春が来ても雪が消えないこの山里では、
いったいどのようにして春が来たことを知るができるだろうか。）



扇面写経下絵（せんめんしゃきょうしたえ）3巻より巻1 糸を紡ぐ女性
明治時代 京都市立芸術大学芸術資料館
大阪市四天王寺に伝わる国宝扇面法華経冊子の下絵のみを描いた絵巻。



大翳（おおかざし）

近代 個人

宮中の女性たちが使用した少し大型の檜扇（ひおうぎ）。
胡粉（ごふん）塗りで雲母（うんも）を引いた地に金銀二色の雲や極彩色の絵を描き、
美しい色糸で装飾されたもの。



女房三十六歌仙図屏風（にようぼうさんじゅうろっかせんずびょうぶ）

六曲一双より右隻

江戸時代 齋宮歴史博物館

平安時代と鎌倉時代の女性歌人36人の画像を描いた屏風。
右隻に齋宮女御（さいくうのにようご）や紫式部（むらさきしきぶ）などの平安時代の
女性18人、左隻に式子（しきし）内親王など鎌倉時代の女性18人を配置している。